

令和5年度 自己評価表

新居浜特別支援学校みしま分校  
学校番号(54)

教育方針	1 生きる力を身に付けるために、学ぶ意欲、豊かな心、健やかな体をバランスよく育む。 2 「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「意欲・人間性」等の資質・能力を育成するために、主体的・対話的で深い学びを実践する。 3 一人一人がもつ可能性を伸ばすために、障がいの状態や発達等にに応じた指導・支援の充実を図る。 4 自立と社会参加を実現するために、一人一人の学びの連続性の確保に努める。		重点目標	1 児童生徒にとって行きたい学校、楽しい学校を目指す。 2 お互いを認め、協力で活動し、自立を目指す児童生徒を育てる。 3 児童生徒一人一人のニーズに応じた目標を設定し、基礎・基本の定着を図る。 4 一人一人が生きて活動する授業実践を目指す。 5 特別支援学校としての地域におけるセンター的機能の充実に努める。	
	領域	評価項目		具体的目標	評価
学習指導	分かる・できる・考える授業の実践	○全ての授業で具体的なねらいを設定し、振り返りの機会を設ける。教員や友達に評価してもらったり、自分自身で振り返り評価したりする。分からなかったり、難しかったりしたときは、教師に質問したり、どうすればよかったのか考え、次につながる機会とする。 ○生活単元学習では、各教科等の目標や内容を取り扱い、各教科の目標を達成していくよう年間計画を立て、授業をする。	B	○全ての授業においてねらいを立て、学習を振り返る機会を設けることが定着している。児童生徒からの質問する機会を設けたり、観点別評価を意識したりすることで、児童生徒が主体的に学習に取り組めるよう授業実践することができた。 ○生活単元学習の年間計画に各教科等の目標や内容を記入することで、教科的な内容を意識して授業に取り組むことができた。	○今後も分かる・楽しい授業が充実していくよう、具体的なねらいの設定と振り返りの機会を設けることを継続する。より良い授業の実践をしていくために、個に応じた支援の工夫や子ども自身の学びを振り返る時間を大切にす。
	教材・教員の工夫	○実践事例等の情報提供やICT活用に関する研修を5回以上実施し、ICT活用スキル調査において自己評価の平均が3.5以上の教員が80%以上にする。	A	○ICT研修を6回実施し、多様な実践事例を知る機会となった。また、書籍等を参考にしながら全国の特別支援学校のICT活用事例を紹介し、ICTの積極的な活用につながった。ICT活用スキル調査においては、自己評価の平均が3.5以上の教員が100%だった。	○今後も高いICT活用スキルが維持できるように、教員のニーズに合った内容の研修を企画したり、実践事例等を多く紹介したりしていく。実践事例の提供は、紙媒体だけでなく、動画でも紹介できるように工夫していきたい。
特別活動	特別活動の充実	○学校行事を通して、異年齢の児童生徒同士で役割を分担して、一人一人が活躍できる場を設定する。地域の方々との交流を通して、社会性を養う。	B	○児童生徒を中心に、朝の挨拶運動を実施した。児童生徒がオリジナルのすきを作成することで、挨拶運動に対する意欲を高め、積極的に取り組む姿が見られた。3学期からは、新生徒会役員で挨拶運動を実施した。新役員で話し合いを行い、挨拶運動ポスター等を作成し啓発活動にも取り組んだ。三島小学校との交流では、互いの良さを知り、充実した活動ができた。	○今後も児童生徒一人一人が、積極的に挨拶を交わし合えるよう、挨拶運動の実施方法について工夫していきたい。「にこわくポスト」には、児童生徒からたくさんメッセージが投函され、校内放送で紹介した。今後「にこわくポスト」を活用し、校内の友達や先生へ感謝の気持ちを届けられるよう工夫していきたい。
	生徒指導の推進	○児童生徒の実態把握に努め、温かい人間関係のもとに、一人一人の可能性を伸ばすことに努める。児童生徒が安心して過ごせる学習環境を整える。	B	○児童生徒が安心、安全に学校生活が送れるように、それぞれの発達段階に応じた交通安全教室を実施した。校外指導では、警察官から路切や横断歩道の渡り方を指導してもらった。大きな事故もなごころであった。	○交通安全教室は各学部で実施した。中学部では、外部講師を招いての講話、校外指導を行い、交通ルールやマナーについて学習した。今後も、外部講師を招いての実施を継続していきたい。
生徒指導	人権・同和教育の充実	○児童生徒が互いに認め合い、共に学び合える環境作りや授業実践を行う。保護者の意見を取り入れながら、参加しやすい校内研修を計画する。	B	○いじめ調査を実施し、言動面でのトラブルのアンケート結果があった。視覚支援を用いた発達段階に応じた学習機会を自らに求めた。人権についての啓発活動を通して人権啓発を図った。校内研修では外部講師による講演会や市主催の研修会に保護者や教職員が多数参加し、人権問題について学んだ。	○いじめ調査の結果から、日頃から児童生徒のサインを見逃さずに丁寧に関わっていくことが重要と思われる。人権・同和教育研修を通して、教職員の人権意識を高めていくしていきたい。「にこわくポスト」の活用を通して、児童生徒が互いに良いところを見つけたし、感謝の気持ちを伝えたりできるよう工夫していきたい。
	進路指導	○キャリア教育推進連絡協議会の委員の助言を基にキャリア教育を実施する。保護者のニーズに応じた学校公開セミナーを実施する。	B	○キャリア教育推進連絡協議会の助言を基に7つの視点でキャリア教育を実施した。地域の生花店を講師として招いてキャリアガイド教室を実施した。学校公開セミナーの実施方法を昨年度と変更し、保護者と事業所等がより詳細に情報交換できる運営に努めた。	○引き続き、小学部低学年の段階から将来の生活を見据えたキャリア教育を実施したり、キャリアガイド教室に地域の方を招いてほしい。キャリア教育の実践を道連れ等で保護者に伝える。学校公開セミナー、PTA座談会、PTA研修の場を活用するなど、保護者への情報提供の場を工夫したい。
健康安全	保健教育の充実	○外部機関を活用した指導の機会を設けると共に、保健室と各学級が連携し、児童生徒が望ましい生活習慣や感染予防行動を身に付けられるようとする。	B	・歯科保健指導を外部講師を招いて行った。感染症対策や望ましい生活習慣の形成のため、それぞれの発達段階に応じて指導を行った。家庭とも連携して習慣化を図り、児童生徒の健康への関心が高まった。	○学校での集団指導、個別の支援は継続するとともに、保護者へ積極的に情報提供を行い、連携を強化する。また、保健所等外部の専門機関より直接指導を受ける機会を、引き続き設ける。
	安全教育の充実	○様々な場面を想定した避難訓練の実施を通して、児童生徒が自ら身を守る行動を身に付けられるようにする。非常時に備え、備蓄を進める。	B	・防災避難訓練(水害)、不審者対応訓練を実施し、教職員間の共通理解を図った。三島小との合同避難(不審者)訓練を実施し、その後体育館にて警察官の方から講話をして頂くことで、児童生徒、教職員の身を守る行動や避難に対する意識も高まった。防災ヘルメットも50個追加され、各教職員へ教職員分追加配属した。	・様々な場面を想定した避難訓練や自らの身の安全を確保する訓練を繰り返し行うことで、多くの児童生徒が安全に関する正しい行動を身に付けつつある。今後も継続して予告なし訓練や日常生活の中想定外の時間帯に訓練を実施するなど、児童生徒の安全を守れる学習内容を実施する。また、備蓄品においても充実を図っていく。
研修	授業力の向上	○初任者研修やキャリアアップ研修Ⅰの研究授業及び授業研修会に一人2回以上参加し、授業力の向上を図る。	B	○1、2学期に全学年で授業公開週間を実施し、他学級の授業を参観した。参観後は感想や助言を伝え合い、有意義な研修となった。授業研修会では、事前に話し合いたいテーマを授業者から出してもらい、クラウドを活用することで、活発な意見交換ができた。	○今後もベーパーベース、クラウド活用など、校務DXを意識した研修形態にしていく。可能であれば隣接する小学校と合同で授業公開や研修を計画・実施し、授業力の向上を図りたい。
	専門性の向上	○特別支援教育における「各教科を合わせた指導」や「学びの連続性」についての研修を計画し、専門性の向上につなげる。	B	○学習評価の3観点の研修では、児童生徒の学習状況や状況を分析的に捉えるための視点を再確認することができた。性教育の研修、相手との適切な関わり方に関する指導法研修、有意義な研修であった。ICT活用については、ロイロノートやiPadアプリなどの研修を行った。どの研修も実践的な内容で、授業力の向上につなげることができた。	○今後も学期ごとに校内グループ研修を行う。自校の教育課題を適切に判断し、解決に向けた取組となるような研修を考え、専門性の向上につなげたい。特にICTに関連は変化が激しいため、新しい情報を取り入れながら研修を充実させたい。
	センター的機能の充実	○地域の園、学校、関係機関のニーズを聞き取り丁寧な対応を行う。適正な就学に繋がるよう教育相談等を行う。	B	○学校参観、教育相談等25件以上に対応した。 ○市内の小中学校の道徳指導教室の担任等を対象に自立活動についての研修を実施した。 ○市内の福祉事業所の職員を対象に学校参観を実施した。 ○新しくコーディネーターとなった2名と研修や相談の打ち合わせを行う、一緒に巡回相談等に参加するなどして後進の育成に努めた。	○今後も市内の巡回相談、教育相談、研修依頼に丁寧に対応する。その際、複数の教員で参加し、幅広い視点からの助言や情報提供や後進の育成に努める。また、より多くの教職員の実践や教材の情報を集め、全校でセンター的機能充実事業とした。 ○コーディネーター後進育成のため、学部を超えて教育相談等に参加する機会を設ける。 ○就学前の幼児への特別支援教育の充実を図るために、幼稚園、保育所等への教育相談をより多く実施したい。
学校運営	P T A 活動の活性化	○PTA理事会を5回以上、座談会を年3回実施するとともに、会議録の情報発信を実施する。また、今年度初のPTA研修等も含め、理事や保護者同士がながり共に活動できるようにPTA活動の活性化を図る。	C	○奉仕活動、座談会、運動会のPTA競技、PTA主催研修会、理事会等、多くの活動を行った。広く活動内容を知っていただくため、座談会や運動会記録その日の朝に速報に配付した。座談会や研修会では、参加された保護者間での様々な情報共有に繋がった。	○今後もPTA活動が充実していくよう、理事会を中心に、理事会と共に様々な協議や情報共有、情報発信に努めていきたい。情報発信については、理事会記録やホームページ、速報等で発信に努めているが、今後も継続することは何れも、読みやすい発信になるよう振り返り等も工夫も行っていきたい。
	経費の効率的な運用	○教育活動が円滑に進むよう、設備・物品の効果的な整備に取り組む。	B	○設備・備品の故障等については、速やかに修繕を実施し、教育活動に支障がないよう対応した。 ○要望により予算措置された備品については購入を完了し、次年度当初備品要望の発注機は納期に時間を要するところから予算要求し、今年度内に納品を完了する見込みである。	○希望がある物品・設備については、次年度当初予算編成として要求。緊急の対応が必要となった場合は、速やかに県教委と連携し、学校教育活動に支障がないよう取り組む。
業務改善	適切な勤務時間	○時間外勤務月45時間以内の教職員の割合、年間累計70%以上を目標に、やりがいのあるより働き方の実現を図る。	B	○時間外勤務45時間以内の教職員の割合(4月～2月の累計)は85.4%で、目標の達成を図れた。月により、一部長時間勤務の状況があるが、声を掛け合い業務の効率化や協力した業務遂行を行った。	○一部、長時間勤務が続いている教員がいたので、業務分担の見直しや教職員間の協力体制、週1回のリフレッシュを継続するとともに、各自の勤務時間の調整などを呼び掛け、学校全体で、風通しのよい職場づくり、健康で充実した働き方の実現を図る。

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一定の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。